様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
医学部	医学科	夜・通信	－	－	24	24	19	
ｽﾎﾟｰﾂ健康科学部	スポーツ科学科	夜・通信	－	6	8	14	13	
	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	夜・通信			8	14	13	
	健康学科	夜・通信			8	14	13	
	ｽﾎﾟｰﾂ健康科学科	夜・通信		－	14	14	13	
医療看護学部	看護学科	夜・通信		－	13	13	13	
保健看護学部	看護学科	夜・通信		－	13	13	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信		－	81	81	13	
保健医療学部	理学療法学科	夜・通信		4	9	13	13	
	診療放射線学科	夜・通信			9	13	13	
医療科学部	臨床検査学科	夜・通信		5	8	13	13	
	臨床工学科	夜・通信			8	13	13	

（備考）
1. ｽﾎﾟｰﾂ健康科学部ｽﾎﾟｰﾂ科学科、ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科及び健康学科は令和 3 年 4 月学生募集停止。
2. ｽﾎﾟｰﾂ健康科学部ｽﾎﾟｰﾂ健康科学科は令和 3 年 4 月開設。
3. 保健医療学部理学療法学科及び診療放射線学科は平成 31 年 4 月開設。
4. 医療科学部臨床検査学科及び臨床工学科は令和 4 年 4 月開設。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名　該当なし
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元厚生事務次官	令和２年４月１日 ～令和６年３月31日	法人運営全般への提案･チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役	令和２年４月１日 ～令和６年３月31日	法人運営全般への提案･チェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教育要項（シラバス）に各授業科目の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を掲載している。 各学部の作成・公表に係る取扱いは次の通りである。 〈1〉 医学部 授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。 ・12 月中旬～2 月上旬頃 カリキュラム委員会において、次年度のカリキュラム大枠が承認された後に科目担当講座・教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。 ・1 月上旬頃～3 月上旬頃 作成、〆切 ・3 月下旬頃まで 作成された内容のチェック。 ・3 月末 新学期オリエンテーション実施日に公表。 記載内容は、学習内容・概要、学習目標（一般目標・到達目標)、自己学習（準備学習)、学習上の注意点、課題に関するフィードバック、成績評価方法・基準、担当教員等としている。 〈2〉 スポーツ健康科学部 学部内の全教員に対してスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配信して、全学科統一の基準で作成をしている。 ① 作成過程及び作成時期 ・12 月上旬　科目担当教員にシラバス作成依頼 ・1 月上旬　　科目担当教員からシラバスが提出 ・1 月中旬　カリキュラム委員会、教務委員会、FD 委員会によるシラバスチェック（～2 月上旬) ・2 月中旬　シラバスチェックのフィードバック及び修正（～2 月下旬) ②公表時期 ・3 月下旬　シラバス公表 〈3〉 医療看護学部 毎年度、シラバス作成要領を科目担当者に配布し更新を行っており、更に教員同士のピアレビューを行い点検と改善を図っている。例年、12 月～3 月に作成を行い、新学期開始に合わせて 4 月初旬に HP で公表している。 記載内容は、当該科目のディプロマポリシー及びコンピテンシーとの関連、授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準、準備学習（予習・復習等）の具体的な内容、課題（試験やレポート等）に対する学生へのフィードバック、担当教員（実務経験の有無を含む）等としている。

〈4〉 保健看護学部
　カリキュラム委員会の要請により、科目担当教員がシラバスを作成し、同委員会で内容を点検している。
　学生に配布する「教育要項」に記載すると共に、保健看護学部ホームページにも掲載して公表している。

〈5〉 国際教養学部
　授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。
・11 月中旬～12 月上旬頃
　後期授業開始後（10 月）、一定期間を経過した後に科目担当教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。
・1 月上旬頃
　作成〆切
・３月下旬頃まで
　作成された内容のチェック
・４月以降
　新学期開始と同時に公表
　記載内容は、授業の方法、内容、到達(達成)目標、成績評価方法、予習復習等の授業外の学修内容、オフィスアワー、授業回数、担当教員、ディプロマポリシーとの関連、カリキュラム体系との関連(ナンバリング)等としている。なお、実務経験のある教員等による授業科目の場合は、その旨を記載している。

〈6〉 保健医療学部
　開講しているすべての科目についてシラバスを作成し、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。作成されたシラバスについては、WEB 上で公表をしている

〈7〉 医療科学部
　授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、両学科統一の基準で作成している。また、カリキュラム委員を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。
　シラバスは医療科学部ホームページに掲載している。

授業計画書の公表方法	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

〈1〉 医学部

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている以下の成績評価基準により単位を授与している。当該基準は、教育要項の共通事項において学生に周知するとともに電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定し、教育要項に明記のうえ学生に周知している。

なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

判定	評価	評点	ＧＰ	備考
合格	S	100 点～90 点	4	－
	A	89 点～80 点	3	
	B	79 点～70 点	2	
	C	69 点～60 点	1	
再試験合格	C	60 点	1	
不合格	D	59 点～0 点	0	
失格	失格（G）	/	－	授業数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格（G）（「/」）はＧＰＡ算出の対象外となる。

〈2〉 スポーツ健康科学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「学修要覧」において、成績及び単位授与・認定について公表し、厳格に運用をしている。

〈3〉 医療看護学部

成績評価と単位認定は、教育要項（シラバス）及び履修要項に定めた成績評価方法（試験、レポート、課題、実技、日々の学習状況等）及び基準に基づき評価の上、判定会議及び教授会において厳格かつ適正に判定している。

〈4〉 保健看護学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「教育要項」において、成績及び単位認定について公表し、厳格に運用をしている。

〈5〉 国際教養学部

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている以下の成績評価基準により単位授与・履修認定を実施している。当該基準は、履修の手引きとして新学期ガイダンスにおいて学生に配布するとともに学生専用ホームページ上においても電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価・定期試験・レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定、シラバスに明記のうえ学生に周知している。なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

合否	評価	点数換算	GP	備考
合格	S	90～100	4.0	特に優れた成績を示したもの

	A	80～89	3.0	優れた成績を示したもの
	B	70～79	2.0	妥当と認められる成績を示したもの
	C	60～69	1.0	合格と認められる最低限の成績を示したもの
	認定	－	－	単位互換に基づき、合格であることを示したもの
不合格	D	59 以下	0.0	不合格を示したもの
	受験資格無	－	0.0	2／3以上の出席要件を満たさず受験資格がないことを示したもの
履修中	履修中	－	－	現在、履修中であることを示したもの
中止	中　止	－	－	履修中止処理を行ったことを示したもの

〈6〉　保健医療学部

　授業科目の学習成果の評価については、各科目の特性を考慮の上、科目担当者が試験やレポートを課し評価している。評価方法及び評価基準については、講義開始前にシラバスにて学生に開示し、記載内容に則り厳正かつ適正に評価を実施している。ペーパー試験やレポートで評価することが難しい定性的能力については、ルーブリックを活用し、評価基準を学生に明示した上で厳正に評価している。

〈7〉　医療科学部

　各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「学修要覧」において、成績評価と単位認定について公表し、厳格かつ適正に判定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

〈１〉 医学部

GPA 制度を導入しており、以下の設定としている。ホームページ上でも公表している。

$$GPA = \frac{\text{Sの修得単位(科目)数}\times 4 + \text{Aの修得単位(科目)数}\times 3 + \text{Bの修得単位(科目)数}\times 2 + \text{Cの修得単位(科目)数}\times 1 + \text{Dの単位(科目)数}\times 0}{\text{履修単位（科目）数}}$$

成績の分布状況の把握は、各授業科目終了後に算出される評価（授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等から算出）を、教務委員会や教授会を通じて把握している。把握するために委員会等に開示している学生情報は主に以下の通りとしている。

・席次・平均点・標準偏差・GP・履修科目の評価点・取得単位

〈２〉 スポーツ健康科学部

全学生に配布している「学修要覧」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	特に優れた学力を示したもの（90～100 点）
A	3	優れた学力を示したもの（80～89 点）
B	2	妥当と認められる学力を示したもの（70～79 点）
C	1	合格と認められる最低限度の学力を示したもの（60～69 点）
D	0	合格と認められるに足る学力を示さなかったもの(59 点以下)
F	0	受験資格なし（出席不足）
W	対象外	履修中止
/	対象外	保留（実技・実習科目において課題未収得もの）
N	対象外	認定

・「Ｓ」「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」を合格とし、所定の単位を付与。
・「Ｄ」「Ｆ」は不合格。不合格科目については、当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。
・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。
・成績を段階評価することになじまない科目及び編入学、転入学などにより、本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「Ｎ」（認定）で表示する。

②ＧＰＡ

・GPA は 4.0～0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることになる。
・GPA 算出式

$$GPA = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値(履修した授業科目の単位数×GP)の合計}}{\text{総履修単位数(卒業所要単位にカウントできない科目を除く)}}$$

・目的

取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修

の質を高める。

・GPA の利用

GPA の点数により翌年度の履修登録可能単位数に影響を及ぼし、基準以下の学生には退学勧告を行う場合がある。また学内の順位づけにも利用する。国内だけでなく、国外の大学でも導入され、海外留学時に選考資料の一部になることもある。

・注意

履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となる。安易な履修放棄は GPA の低下につながる。(成績評価「F」も分母に含まれる。)

〈3〉 医療看護学部

GPA 評価を導入しており、評価は、新カリキュラム（1 学年）では S(4.0) A(3.0) B(2.0) C(1.0) D(0.0)、旧カリキュラム（2～4 学年）では A(4.0) B(3.0) C(2.0) D(1.0) E(0.0)としている。評価の算出方法は次の通りである。

修得ポイント＝（授業科目単位数）×（その科目の Grade Point)。GPA=（修得ポイントの合計）÷（履修した授業科目の単位数の合計)。

GPA は進級判定、卒業判定、助産師国家試験受験資格取得科目の履修者選抜試験や海外研修の参加条件等における総合判定データのひとつとして利用されており、算出方法は前述の通りである。また、これらは履修要項に明示しており、HP で公表している。

新カリキュラム（1 学年)

評価	判定	基準点数
S	合格（単位修得認定）	90 点以上
A		89～80 点
B		79～70 点
C		69～60 点
C		再試験合格（60 点）
D	不合格（単位修得不可）	59～0 点

評価	判定	備考
E	途中棄権	履修登録したにもかかわらず、履修を取消した場合 ※成績通知書には記載しますが、成績証明書には記載しません
N	単位認定	本学部以外で取得した単位を認定した場合

旧カリキュラム（2～4 年次)

評価	判定	基準点数
A	合格（単位修得認定）	80 点以上
B		80 点未満～70 点以上
C		70 点未満～60 点以上
D		再試験合格（60 点）
E	不合格（単位修得不可）	60 点未満

評価	判定	備考
F	途中棄権	履修登録したにもかかわらず、履修を取消した場合 ※成績通知書には記載しますが、成績証明書には記載しません
G	合格（単位修得認定）	評価点数が無い科目で合格となった場合
N	単位認定	本学部以外で取得した単位を認定した場合

〈4〉 保健看護学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

・成績の評価

通年授業科目についても各期に試験を行い、平素の学習状況、授業時間内に行われるテスト、レポート提出等を総合的に評価して成績評価を行う。

成績評価の表示は、次の基準により行うものとする。

令和4年度以降入学生		令和3年度以前入学生	
90点以上 100点まで	S		
80点以上　90点未満	A	80点以上 100点まで	A
70点以上　80点未満	B	70点以上　80点未満	B
60点以上　70点未満	C	60点以上　70点未満	C
60点未満（不合格）	D	60点未満（不合格）	E

・GPA（Grade Point Average）

各学年における成績評価を客観化するために、グレイド・ポイント・アベレージ（以下、GPA）制度を利用するものとする。GPAは、学生に対する学習指導、奨学生の推薦、海外研修参加、進級及び卒業認定にあたっての参考資料に利用するものとする。GPA 2.5点以下（2021年度以前入学者）、2.0点以下（2022年度入学生以後）の場合は、進級判定において審議対象となる。

GPA＝〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示し（少数点第3以下切捨て）、修得ポイント＝〔授業科目単位数×その科目のGrade Point〕とする。

Grade Pointは成績評価に基づき次のように対応する。

令和4年度以降入学生	S	A	B	C	D
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
令和3年度以前入学生	A	B	C	D	E
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

（ア）①＝履修した授業科目の単位数×履修した授業科目の成績評価のGrade Point

（イ）当該学年の①の合計＝②

（ウ）当該学年に履修した授業科目の単位数の合計＝③

（エ）GPA＝②÷③(小数点第3以下切り捨て)

〈5〉　国際教養学部

GPA制度を導入しており、以下の設定としている。ホームページ上でも公表している。

具体的な計算方法

$$\frac{4.0 \times \text{Sの修得単位数} + 3.0 \times \text{Aの修得単位数} + 2.0 \times \text{Bの修得単位数} + 1.0 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む。）}}$$

＊ GPAの算出対象については「◆成績について」のページも併せて参照してください。
（認定科目、中止科目、履修中（成績保留）の科目は算定対象となりません。）

成績の分布状況の把握は半期毎に教務委員会や教授会を通じて把握している。把握するために開示している学生情報は主に以下の通りとしている。

・席次・取得科目数・欠点科目数・平均点・GPA・取得単位数（合計）

・履修科目の評価点（100点満点）　等

その他、付随情報として科目毎の最高点、最低点、平均点、標準偏差 等も共有されている。なお、学生は常時自身の GPA の数値が確認できるように教学システム(Juntendo-Passport)上で公開している。

〈6〉 保健医療学部

成績評価において、修得した成績に対する GP を定め GPA 制度を導入している。GPA の算出方法についてはシラバスに明記し、学生及び教員に周知している。取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となる。安易な履修放棄は GPA の低下につながる。(履修中止科目は除外する)

・GAP 算出式

具体的な計算方法
$\frac{4.0 \times \text{Sの修得単位数} + 3.0 \times \text{Aの修得単位数} + 2.0 \times \text{Bの修得単位数} + 1.0 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不合格（D）」の単位数を含む。履修中止科目は除外する。）}}$ ＊ 卒業要件とならない科目は、GPAの算出から除外する。

〈7〉 医療科学部

全学生に配布している「学修要覧」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	特に優れた学力を示したもの（90～100 点）
A	3	優れた学力を示したもの（80～89 点）
B	2	妥当と認められる学力を示したもの（70～79 点）
C	1	合格と認められる最低限度の学力を示したもの（60～69 点）
D	0	合格と認められるに足る学力を示さなかったもの（59 点以下）
F	0	受験資格なし（出席不足）
W	対象外	履修中止
N	対象外	認定

・「S」「A」「B」C」を合格とし、所定の単位を付与。
・「D」「F」は不合格。
・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。
・本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」で表示する。

②GPA

・GPA は 4.0～0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることとなる。
・GPA 算出式は以下の通り。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値（履修した授業科目の単位数×GP）の合計}}{\text{総履修単位数（卒業所要単位にカウントできない科目を除く）}}$$

・取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
・GPA の点数により翌年度の履修登録単位数に影響を及ぼし、基準以下の学生には退学勧告を行う場合がある。
・履修登録した科目は、所定期間内に履修中止申請を行わない限り GPA の対象となる。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html （各学部の掲載ページへのリンク）

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 〈１〉 医学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては医学部教育要項の共通事項上に記載のうえ、新学期オリエンテーションにおいて配布している。 〈２〉 スポーツ健康科学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「学修要覧」にも明記している。スポーツ健康科学部に 4 年以上在学し、学則第 98 条の規定により 124 単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。なお、卒業に必要な単位として算入される科目と、資格課程等の取得を目的として修得する科目など卒業に必要な単位として算入されない科目がある。 〈３〉 医療看護学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を定め、履修要項や学生募集要項等に掲載し、ホームページ上で公表している。また、ディプロマポリシーを達成するために必要な能力として 10 分類、48 項目のコンピテンシーを設定しており、各科目とコンピテンシーの対応表と併せて履修要項に掲載している。卒業判定においては、ディプロマポリシー及び学生の修得単位数等を踏まえ、適正に判定を行っている。 〈４〉 保健看護学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「教育要項」にも明記している。 保健看護学部に 4 年以上在学し、学則第 128 条の規程により 130 単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を行う。 〈５〉 国際教養学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修の手引き上に記載のうえ、新学期ガイダンスにおいて配布するとともに学生専用ホームページ上において電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。 〈６〉 保健医療学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページに掲載し公表している。まだ完成年度をむかえていないため卒業認定を行っていないが、2022 年度の最初の卒業認定以降は、卒業の認定に関する方針に基づき適切に卒業判定を実施する予定である。 〈７〉 医療科学部 ディプロ・マポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。 医療科学部に 4 年以上在学し、学則第 144 条の規程により 129 単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html
財産目録	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html
事業報告書	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html
監事による監査報告（書）	https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：令和４年度事業計画　　対象年度：令和４年度）
公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html
中長期計画（名称：事業に関する中期的な計画　　対象年度：令和2～7年度）
公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/university/about/hyoka.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/university/about/hyoka.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　医学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医学部では、以下の順天堂大学医学部の教育目標に沿って設定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ各年次で定める基準に合格し、以下の資質・能力を身に付けた者に対し学士（医学）の学位を授与します。
（１） 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術・技能が身に付いている。
（２） 常に進歩する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する不断前進の態度・習慣が身に付いている。
（３） 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を思いやり、慈しむ心（学是「仁」）が涵養されている。
（４） チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身に付いている。
（５） グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身に付いている。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士（医学）の学位を授与します。
Ⅰ．診療技能・患者ケア，医学的知識
　科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。
Ⅱ．医療安全
　医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。
Ⅲ．チーム医療，コミュニケーション
　チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。
　他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。
Ⅳ．医療の社会性
　行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。
Ⅴ．倫理とプロフェッショナリズム
　医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。
Ⅵ．自立的学習能力，順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任
　順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心（学是「仁」）を持った行動ができる。
グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。

1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1 年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進める PBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。
3. 3年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。
4. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種の専門家との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4 年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属 6 病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることにより、臨床能力を身に付ける教育を行います。
5. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6 年次の臨床実習では、海外での実習機会（2～8 週間、留学先は自ら選べる）を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。

学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
求める学生像
医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます

1.一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人
2.幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人
3.自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人
4.国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人
5.入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等
医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

1.理科：物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心

2.数学：数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B についての十分な知識と論理的思考力
3.英語：国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 68 点程度／IELTS 6.0 程度、もしくは同等水準の英語能力
4.国語：十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
5.地理歴史・公民：世界史 B、日本史 B、地理 B、現代社会、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
6.特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6 年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけを目指すのではなく、国家試験をものともしない、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。

学部等名　スポーツ健康科学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
【2020 年度以前入学者】
スポーツ健康科学部は、学是である「仁」の精神に基づき、スポーツと健康に関連する専門的知識と技能の修得、及びその実践的な応用力の涵養を図る。これをもって心身ともに健やかで活力ある社会の構築と先導を担う、高い倫理観を兼ね備え、創造性豊かな人材を育成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。
（１） スポーツ科学科では、アスリートの競技力向上及び人々の健康・体力づくりに適切な運動プログラムの開発、系統的・段階的な指導技術に必要な基礎知識と技能を修得する。
（２） スポーツマネジメント学科では、スポーツを客観的・多角的に分析する基礎知識と習慣を身につけ、スポーツをコアとして国際的に通用する実用性・創造性の高いマネジメント力を修得する。
（３） 健康学科では、健康に関わる科学的な基礎知識と実用性に富んだ技能を身につけ、障害者（児）を含む人々の健康づくりと健康支援に必要な基礎知識ならびに技能を修得する。
【2021 年度以降入学者】
スポーツ健康科学部では、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。

１．スポーツ健康科学に関連した幅広い知識を基礎とした教養を身につける。
２．スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観を身につける。
３．グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップを身につける。
４．社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力を身につける。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
【2020 年度以前入学者】
スポーツ健康科学部では、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、スポーツと健康に関連した教育、ビジネス、福祉等の分野において、新たな職業ニーズにも対応できる人材の育成を共通の目標とします。この共通目標の下に、以下に定める資質・能力を身に付けた者に対して学士の学位を授与します。
＜スポーツ健康科学部共通＞
1.スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力
2.協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力
3.スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観
＜スポーツ科学科＞
スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（スポーツ科学）』の学位を授与します。
1.スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能
2.スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力
＜スポーツマネジメント学科＞
スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（スポーツマネジメント学）』の学位を授与します。
1.経営学、社会心理学、社会学等を応用したスポーツマネジメント学についての知識と技能

2.国際的視野を持ち、ビジネス対象としてのスポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からマネジメントできる能力
＜健康学科＞
スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（健康学）』の学位を授与します。
1.健康を創造・支援するために必要な身体的・精神的・社会的健康についての知識と技能
2.健康に関する専門性を活かし、人づくり、社会づくりに貢献できる能力
【2021 年度以降入学者】
スポーツ健康科学部では、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科では、次に定める資質及び能力を身に付けた者に対し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与しま
す。
1.スポーツ健康科学に関連した幅広い知識を基礎とした教養
2.スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観
3.グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ
4. 社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
【2020 年度以前入学者】
スポーツ健康科学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を実践するとともに、以下のとおり教育課程を編成・実施し、学修成果を適切に評価することで、教育方法の改善につなげていきます。
＜スポーツ健康科学部共通＞
1. 学部共通科目を設置するとともに、学部で開講されるゼミナールを含むほぼ全ての科目、他学部開講の一部科目を履修可能とし、学生の興味・関心に応える自由度の高い教育システムを提供します。
2. 1 年次には、人文・社会・自然科学及び語学の基礎的教養科目に加え、学科ごとの基礎的科目を、2 年次以降はより専門性の高い知識とスキルを身に付けるための科目を配置します。
3. 全学科で必修のゼミナールでは卒業論文の作成を通じて、丁寧な個別指導によって、身に付けた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成します。
4. コミュニケーション能力や倫理観について、寮生活や各種の実習等での協働を通じて養成します。
＜スポーツ科学科＞
スポーツ科学科では、スポーツに関わる事象の原理を主として自然科学的に理解・究明・表現できる人材を育成することを目指し、1 年次にはスポーツ医科学及びコーチング科学の基礎的科目を配置します。各自の学修目標と進路の違いに対応するため、2 年次からは、スポーツ医科学コース、コーチング科学コースにおいて、それぞれが定める知識や能力を身に付けるための専門性の高い科目を配置します。
［スポーツ医科学コース］
1. スポーツに関わる諸事象を観察、実験及び数理モデルを用いて客観的に秩序正しく記述・説明することを通して、自然科学的立場からスポーツを理解する力を身に付けるための科目を配置します。
2. 科学的根拠に基づいた種々のトレーニングや健康・体力づくりに関する知識と方法を正しく理解し、競技力向上や人々の日常生活に応用できる能力を身に付けるための科目を配置します。

［コーチング科学コース］
1. スポーツに関わる諸科学の知見に基づく知識と方法を理解し、運動プログラム及び運動技能の研究開発に応用できる力を身に付けるための科目を配置します。
2. 初心者からトップアスリートまでの競技力向上及び人々の健康・体力づくりに必要な系統的・段階的な指導の知識と技術を身に付けるための科目を配置します。
＜スポーツマネジメント学科＞
1. スポーツマネジメント学科では、スポーツの経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」に関する基礎的知識を修得した上で、少人数による演習科目や、インターンシップへの参加など、より実践的な科目を配置します。
2. 1 年次には、スポーツマネジメントの大まかな枠組みと関連分野の基礎学問の修得を目指した科目を配置します。2 年次からの各論では、経営資源のいずれに興味を持つかにより専門科目を選択し、それぞれの側面から現状の問題点の把握、改善策について問題を掘り下げる能力を身に付ける科目を配置します。
＜健康学科＞
1. 健康学科では、身体的・精神的・社会的健康に関する基礎的な知識を修得し、人々の健康づくりと健康支援に必要な技能を育むべく専門性の高い科目を体系的に配置します。
2. 1 年次では、健康づくりと健康支援についての科目を配置し、2 年次からは現代日本における教育・社会・環境・精神保健・福祉などの各論を配置することにより、健康を創造・支援できる能力を身に付ける科目を配置します。
【2021 年度以降入学者】
スポーツ健康科学部では、「学是である「仁」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点及びスポーツ健康科学分野における専門性並びに高い倫理観を備え、多様な価値をもつスポーツを通じて社会の発展に貢献できる人材を育成する」ことを教育研究上の目的とします。教育目的を達成するための本学部カリキュラム・ポリシーは次に示す通りです。
1. スポーツ及び健康に関する諸科学の幅広い知識を基礎とした教養を身に付けるため、人文、社会及び自然に関する諸学並びにスポーツと健康に関する多面的な学問分野のそれぞれについて授業科目を配置するとともに、他学部開講の一部科目を履修可能とし、多角的な視点を身に付けることができる自由度の高い教育課程を編成します。（本学部ディプロマ・ポリシー「１．」に対応する）
2. スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすために求められる倫理観を身に付けるため、倫理教育を行う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技活動並びに１年生全員が入寮する学生寮での生活を通じて、集団の中での個の確立と学是「仁」の精神の涵養を促します。（本学部ディプロマ・ポリシー「２．」に対応する）
3. 連携や協働を促進するためのリーダーシップ又はコミュニケーション能力を身に付けるため、リーダーシップ又はコーチングに関するテーマを扱う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。また、国際社会において活躍するために必要な外国語運用能力を高める授業科目を必修とします。（本学部ディプロマ・ポリシー「３．」に対応する）
4. 自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野の専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力を身に付けるため、全ての授業で学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を取り入れます。３年次からは、各専門コースにおいて、学生それぞれが目標とする知識や能力を身に付けるための専門性の高い科目を配置します。また、ゼミナールや卒業研究では、丁寧な個別指導によって、身に付けた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成する教育を行います。（本学部ディプロマ・ポリシー「４．」に対応する）

学修成果は、シラバスに明示された評価方法に基づき、授業科目の修得状況を総合的に評価します。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）

求める学生像

スポーツ健康科学部は、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成するため、次のような学生を求めます。

1.思いやりを持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2.豊かな人間性を備え、コミュニケーション力を有する人
3.幅広い教養と向学心を有し、自己研鑽に努めることができる人
4.自ら問題を見つけ出し、知的好奇心を持って課題解決に取り組むことができる人
5.グローバル社会におけるスポーツ健康科学の発展に寄与する熱意の有る人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

スポーツ健康科学部では、主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

【知識・技能、思考力・判断力・表現力に関わるもの】
1.国語：基礎的な読解力、構成力、表現力
2.英語：基礎的な読解力・コミュニケーション力
3.数学：数学Ⅰ、数学Aの学修内容を中心とした基礎的な数学の知識と論理的思考力
4.理科：生物、物理、化学、地学のうち、いずれかの科目についての基礎的な知識と科学的な思考力
5.地理歴史・公民：世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政治・経済のうち、いずれかの科目についての基礎的な知識
【主体性を持って多様な人々と協働する力】
6.集団活動におけるリーダーシップ、コミュニケーション力、主体性
【体育やスポーツ分野で必要な力】
7.体育やスポーツ分野での活躍を目指す学生については十分なスポーツ技能や経験知、実践力

入学者選抜の基本方針

スポーツ健康科学部は、自らの将来をよく考えて主体的に学ぶ力やコミュニケーション力、実践力等を見極めるために多様な選抜方法を採用しています。入学者選抜に当たっては、学力試験だけではなく小論文試験や面接試験を通して、また、高等学校での学修状況や諸活動での取り組み、スポーツ活動なども評価対象に加えて、入学者の受け入れを総合的に判断します。

障害等のある方の受け入れ

スポーツ健康科学部では、障害等のある入学志願者について、可能な限り受け入れるという方針です。障害等のある入学志願者で、受験や修学、寮生活で特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち相談に応じます。

学部等名　医療看護学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療看護学部は、学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに高度先進医療の一翼を担うことができる高い倫理観を兼ね備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）の育成を目指すことを目的とする。そのために、以下の目標を定める。
（１） 看護に関する確実な知識・技術を身につけ、身体のみならず心を癒す質の高い看護が実践できる看護実践能力を修得する。
（２） 次世代の看護職者として国際的に通用し、広く保健・医療・福祉の分野において活躍できる能力を修得する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療看護学部は、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。
1.豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力
2.個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力
3.関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力
4.グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力
5.自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療看護学部のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」の４ つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。
1.豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる看護職者としての人間性を涵養するためにリベラルアーツ関連科目と専門を学ぶ上で必要な授業科目を全学年にわたりバランスよく配置します。
2.個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて、エビデンスに基づいた看護を実践するために必要となる知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的配置し、高度な専門教育につながるカリキュラムを提供します。
3.看護師・保健師・助産師としての実践能力を段階的に獲得するように授業科目を編成します。保健師や助産師の資格取得を希望する者にはそれぞれに必要となる授業科目を適切な時期に配置します。
4.実習・演習は、関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために、保健医療チームの一員として多様な職種と連携できる看護職者を涵養する内容の授業科目を配置します。特に、分野別実習では、看護職者として必要となる基本的態度を身に付けます。
5.グローバリゼーションに対応できる看護職者となるために必要なリベラルアーツ関連科目を全学年に渡りバランスよく配置します。
6.自己の知識、技術、態度を自ら客観的に評価し、他者からの評価を真摯に受けとめ、探求心を持って自己研鑽する態度を身に付けるために、授業におけるアクティブ・ラーニングを促進します。
7.学修成果の評価は、授業の進度に合わせシラバスに明示された学修目標とコンピテンス

に基づく小テスト・定期試験・レポート、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療看護学部は、学是である「仁」の精神の基に、順天堂の長い伝統と歴史を持つ看護学教育の中で培われた安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに、高度先進医療の一翼を担うことができる高い倫理観を兼ね備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）を育成するため、次のような資質を備えた学生を求めます。

求める学生像

1. 入学後の学修に必要な基礎学力が身に付いている人
2. 人に対して関心を持ち、「仁」の精神に共感できる人
3. 豊かな人間性、柔軟性と協調性を備えたコミュニケーション能力が身に付いている人
4. 国内外の保健・医療・福祉分野に広く貢献したいという志を持つ人
5. 自ら思考し、課題解決に向けて自己研鑽に取り組める人
6. 自己の健康に関心を持っている人

看護学を学ぶために必要となる大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

1. 文章の読解力及び論理的思考を適切に表現する力
2. 国際社会への関心とコミュニケーション手段としての国語や英語等の言語力
3. 生命現象を理解する上で必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識

入学者選抜の基本方針

医療看護学部は受験生の持つ資質や適性に応じて、複数の受験機会と多様な入試を実施します。特に、「仁」に共感できる人を選抜するために、学力試験に加えて受験生の人となりや感性と教養を見極める方法として、小論文試験や面接試験を実施することで入学者の受け入れを総合的に判断します。

学部等名　保健看護学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
学是である「仁」の精神に基づき、保健医療福祉の一翼を担う優れた看護実践力をもつ心温かで、地域の人々のヘルスプロモーションに貢献する国際性豊かな看護職者を養成する。
(1)科学的根拠に基づいた看護基礎能力を身に付け、心身を癒す看護実践能力を修得する。
(2)進歩・変化の著しい保健医療福祉分野を総合的に理解し、創意工夫する態度・習慣を身に付ける。
(3)国際的に活躍できる素養を身に付ける。
(4)自らの健康管理を実践しながら能動的・主体的に看護学を探求する能力を習得する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
保健看護学部に 4 年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。
(1)他への思いやり、慈しむ心、豊かな教養、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力
(2)看護を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき看護を実践できる能力
(3)保健医療福祉における看護職者の専門性を自覚し、多職種と連携、協働できる能力
(4)進歩・変化の著しい保健医療福祉分野を総合的に理解し、創意工夫して課題解決するために、情報通信技術（ICT）を用いて情報を利活用する能力
(5)グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために、国際的視野を持ち、異文化を理解する能力
(6)看護への関心を深め、探究心を持って研究に取り組むことができる能力
(7)自らの健康維持増進に留意して能動的に学び続けることができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

保健看護学部の教育課程は、「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の 4 つの科目群により構成され、段階的に理解力が深められるように工夫しています。
(1)他への思いやり、慈しむ心、豊かな教養、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力を涵養するためにリベラルアーツ関連科目を全学年にわたりバランスよく配置し、そこで培った仁の精神や倫理観を 1～4 年次に配置している看護専門科目及び看護学実習を通してさらに深めています。
(2)看護実践に必要な知識・技術及び態度を修得する「生活援助技術」を初年次より配置し、エビデンスに基づく看護技術の習得を目指します。「各領域看護方法論」では人々の保健医療福祉に関連した諸学問を総合的に活用し、看護の対象となる人々の成長発達、身体的、心理社会的、地域特性を捉え、「形態機能学」や「臨床医学」の科目で学んだ知識を活用しながら健康課題及び生活支援のアセスメントができるようにします。さらに臨地実習を通して段階的に看護実践能力の向上を図るように編成します。
(3)保健医療福祉における看護職者の専門性を自覚し、多職種での連携、協働できる能力を育成するために、1 年次より早期に「地域包括ケア探索実習」や「多職種連携医療体験実習」を開始します。各学部、医学部附属病院、地域の保健医療福祉機関と連携し、「地域包括ケア実践統合実習」などを通して多職種での連携について学修できるよう工夫します。
(4)進歩・変化の著しい保健医療福祉分野を総合的に理解し、創意工夫して課題解決するために、演習や実習科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。

また、情報通信技術(ICT)を用いて情報を利活用する能力、情報リテラシーの獲得ができるように初年次から「情報処理」「ICT と看護」の科目を配置します。学生個々が所有するパソコンやマルチメディア教室を活用しながらオンラインを活用した授業・実習を提供します。

(5)グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために必要な外国語運用能力を高める英語科目を必修とし、国際的視野を持ち、異文化を理解する能力を高めるために 2 年次に「グローバル社会と看護」、4 年次に「グローバルヘルス」を配置します。また、海外研修や国際オンライン研修を提供し、国際的視野を獲得できるようにします。

(6)看護への関心を深め、探究心を持って研究に取り組むことができる能力を育成するために、初年度の「教養ゼミナール」や 3・4 年次に「卒業研究」を配置します。そしてリサーチマインドを持った臨床家、研究者、次世代を育成する教育者等、大学院進学等を含めたキャリア設計を描けるよう丁寧な個別指導を行います。

(7)1 年次よりスポーツ及び健康に関する科目を配置し、静岡県東部地域に位置する地域性を生かした「野外スポーツ実習」を行い、他学部との交流を通して、自らの健康維持増進に留意して能動的に学び続けることができるようにします。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）

保健看護学部は、順天堂の 1896 年から続く長い歴史と伝統ある看護教育を基盤として、充実した看護専門技術・実践力教育を行い、人間味ある感性豊かな看護職者（看護師・保健師）を育成します。そして、看護学及び関連領域の発展、地域の保健医療福祉の向上に貢献するとともに国際交流を図ることを目指しています。

順天堂の学是「仁」、これは順天堂大学のあり方や教育研究における考え方の拠り所となる大事な言葉で、他を思いやり、慈しむ心、即ち「仁」です。「仁」を大切に育み、全人教育に基づき「心身を癒す看護」を実践する次世代の人材を育成することを教育の理念としています。

求める学生像

保健看護学部は、学是「仁」の精神に基づき、心身を癒す看護を実践し、保健医療福祉の分野で貢献でき、さらに、国際的視野を持った看護職者（看護師・保健師）を養成するため、次のような意欲と資質を持った学生を求めます。

1.本学の学是「仁」及び理念「不断前進」を理解し、自らの持つ感性と倫理観を絶えず磨いていく意欲の高い人
2.看護・医療を学ぶための基礎学力を有している人
3.国内外の保健医療福祉の分野に貢献したいという意志を有している人
4.探究心を有している人
5.自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

保健看護学部は、以下の能力を有する人を求めます。

1.文章の読解力と自分の思考を表現する力
2.国内外の人々とのコミュニケーションを実現できる能力としての基礎的な英語力
3.看護を科学的に思考し実践するため、数学・理科の基礎的な知識

入学者選抜の基本方針

保健看護学部は、入学者選抜に当っては、多様な入試制度を用意し、学力試験だけではなく受験生の感性や人となり、教養を見極めるために、面接試験・小中高等学校における諸活動等を総合的に判断して、入学者を選抜します。

学部等名　国際教養学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
国際教養学部は、学是である「仁」の精神に基づき、グローバル化時代の国際社会に貢献できる能力の開発を目指し、グローバリゼーションの時代にふさわしい国際教養を備え、多角的な視点を養い、論理的な思考力と分析力、実行力を身に付け、強い自立心と倫理観、問題解決能力を身に付けたグローバル市民を育成する。そのために、以下の目標を定める。
（１）　グローバル市民として英語等外国語によるコミュニケーション能力を修得する。
（２）　国際社会で幅広く活躍するベースとなる国際教養を理解し、身に付ける。
（３）　国際社会の課題解決に取り組む意欲に溢れ、人間味豊かな人格を培う。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
国際教養学部では、本学の学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、「学士（国際教養学）」の学位を授与します。
1.グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力
2.自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力
3.母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力
4.グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
国際教養学部では、学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民」を育成する教育課程として、4 年間にわたる国際教養教育を次のとおり編成します。
【導入期】
1.基礎演習によるコミュニケーション能力の育成
「プレゼンテーション」、「ファシリテーション」を体験することで、グローバル市民として必須なコミュニケーション能力の基盤を培います。
2.国際的な広がりを有するリベラルアーツを醸成する基盤科目
健康・医療などに関連する分野を含む幅広い教養及び外国語を、文系、理系にとらわれない基盤科目として学び、広く、深い教養と豊かな人間性・倫理観を培います。
3.複言語主義と言語文化アプローチに基づく 1、2 年次の外国語教育
「グローバル市民」として求められる外国語コミュニケーション能力を習得できるよう、「複言語主義」に基づき、国際英語科目以外に、もう 1 つの外国語としてフランス語、スペイン語、中国語から 1 言語を履修します。授業では、異文化コミュニケーションを学び、体験できる「言語文化アプローチ」を導入します。TOEFL など国際標準の能力測定試験を用いて能力の向上を測定します。
4.3 領域への導入
初年次に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修し、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスという 3 つの領域に触れ、領域間の

関係性について学びます。
【形成期】
5.3 領域からなる展開科目
形成期に入る 2 年次には、各領域の概論科目を必修として履修し、各自の関心に応じて 1 領域を選択します。3 年次以降は、3 領域に関する科目を展開科目として設定します。グローバル社会領域では、持続可能な未来へ向けて、グローバル化をめぐる問題を学び、グローバルヘルスサービス領域では、身体、健康、生命などに関して日本や世界が抱えている諸課題を学び、そして異文化コミュニケーション領域では、異質な文化とのコミュニケーションが内包し、表象する課題について深く理解し、多文化/多言語社会の構築に寄与する方途を学びます。
6.専門的な外国語教育と海外留学・研修
将来の進路を念頭に自主的に英語を学習できる「目的別英語科目」を揃え、また、フランス語、スペイン語、中国語では選択科目として上級コースを配置します。海外留学の道が開かれており、「海外研修プログラム」も課程外（一部は単位認定）の取り組みとして設定します。
【完成期】
7.3 領域をまたがる複眼的思考の醸成
学生が自ら選択する 1 領域に加え、他領域の授業科目についても領域横断的に履修することにより、複眼的思考を可能にする知見を得られるような教育編成とします。
8.演習科目による専門性の強化
3、4 年次の「グローバル市民演習」では各自が選択した領域に関連する課題について研究します。
9.卒業論文の作成
各自が選択した領域に加え、場合によっては他領域での学びも組み込み、卒業論文を作成します。
【キャリア形成における 2 つの柱】
10.キャリア教育の単位化
入学直後の初年度から、学生の社会的・経済的自立を促すキャリア教育の充実にも重点を置き、キャリア科目をカリキュラムとして編成し、正規の科目として単位化します。
11.教員免許（英語）を取得できる教職課程
指定された科目を履修し所定の単位を取得すれば、中学校及び高等学校教諭（英語）の 1 種免許を取得できます。
【学修方法】
12.主体性を引き出すアクティブ・ラーニングの実践
学修方法として、少人数授業と協同学習を活用し、学生が主体的に関わるアクティブ・ラーニングを実践します。
【学修成果の評価】
13.学修成果の包括的評価
学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
国際教養学部の教育目的は、持続可能な未来の創造に寄与できるグローバル市民性(global citizenship)を涵養することにあります。人類の未来が持続可能であるためには、多様性の確保が必須であり、多文化多言語共生社会の構築に貢献できるグローバル市民が求められます。
本学部では、その教育理念を理解し、「多文化が共存する社会に貢献するグローバル市民」となる資質を備えた、次のような意欲的な学生を求めます。
求める学生像
1.グローバル化した世界の実態や課題とその背景及び多様な文化や人間に関心を持ち、人

類の持続可能な未来に貢献しようとする夢を持つ人
2.「グローバル市民」として、多文化共生社会に貢献することを目指し、生涯にわたり自律的な学びを継続する意志を持つ人
3.自らのアイデンティティと母語能力を基盤に、外国語でのコミュニケーションを通して異文化を理解し相互に交流を図ろうと努力する人

大学入学時までに身に付けておくべき教科・科目等

国際教養学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。
1.英語及び国語：国際社会において活躍できるためのコミュニケーション能力、基礎的な読解力、表現力、思考力
2.社会：国際社会への関心・理解に必要な地理歴史・公民のうち、いずれかの科目についての基礎的な知識
3.理科及び数学：生命現象・健康・医療を理解する上で必要となる生物や化学、数学等の自然科学の基礎的知識
4.課外活動、ボランティア活動、海外経験等を通じた主体性、自律性、積極性

入学者選抜の基本方針

本学部では複数の入学者選抜方法を組み合わせ、多様な背景を持った学生を積極的に受け入れます。また、高等学校での学修状況や諸活動での取り組み、ボランティア活動なども評価対象に加えて、入学者の受け入れを総合的に判断します。

学部等名　保健医療学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とする。そのために、以下の目標を定める。
（１）人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力を身に付ける。
（２）医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力を身に付ける。
（３）自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を身に付ける。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。
＜保健医療学部共通＞
1.人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力
2.医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力
3.自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力
＜理学療法学科＞
保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（理学療法学）』の学位を授与します。
1.人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2.理学療法を必要としている人々を全人的に理解する能力
3.人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4.理学療法学を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき理学療法を実践できる能力
5.理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力
＜診療放射線学科＞
保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（診療放射線学）』の学位を授与します。
1.人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2.放射線技術を必要としている人々を全人的に理解する能力
3.人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4.放射線技術の対象及び目的について理解し、健康や障害の状態に応じて科学的根拠に基

づく放射線技術を実践できる能力
5.放射線技術学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
保健医療学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。
学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。
＜保健医療学部共通＞
1.人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士及び診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習・実験で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2.医学と医療を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた実践能力を修得し、主体的に行動できる能力を育成するために必要となる専門的知識・技術を着実に身につけ、高度な専門教育につながるカリキュラムを編成します。
3.演習、ゼミナール、実習科目を通じて主体的に学修する能力と自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につける教育を行います。
4.「卒業研究」を必修科目として卒業論文を課し、卒業論文をまとめる過程を経験することにより主体性をもって研究を遂行できる能力を育成します。
＜理学療法学科＞
1.人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2.理学療法学の知識と基本となる理論を学修し、個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた理学療法の治療技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3.演習やゼミナール、実習による授業や『専門分野』総合領域の授業「理学療法研究法」「卒業研究」を学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。
＜診療放射線学科＞
1.人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2.医学と医療を総合的に理解し、放射線医学領域に係る専門的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3.演習・実習・実験による授業や『専門分野』総合領域の授業「卒業研究」を通して学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
保健医療学部では、学是である「仁」の精神に基づき、順天堂の長い歴史と伝統の中で培われた安心・安全で質の高い保健医療を提供し、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療専門職者（理学療法士・診療放射線技師）を育成するため、以下のような資質を備えた学生を求めます。

求める学生像

＜保健医療学部共通＞
1.「仁」の精神に共感でき、人に対する関心や思いやりがある人
2.入学後に学ぶ学問領域に興味を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
3.豊かな人間性、柔軟性と協調性を備え、他者との連携・協調を保てる人
4.国内外の保健医療福祉の分野に広く貢献したいという志のある人
5.高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけている人
6.基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

各学科では、教育課程の内容に基づいて、次の能力を身に付けられる学生を求めます。

＜理学療法学科＞
1.「気配り、目配り、思いやり」を持って他者との関わりを大切にし、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2.ヒトの運動や動作のメカニズムに関心がある人
3.理学療法士になる意思が強く、目標達成のために様々な方法を見つけ、粘り強く努力を続けることのできる人
4.社会の動きに関心を持ち、コミュニケーション能力がある人

＜診療放射線学科＞
1.人を思いやる心、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2.生命科学や放射線科学に興味を持ち、様々な分野で将来に亘り社会に貢献しようとする意欲のある人
3.学ぶ意欲や挑戦しようとする意欲があり、粘り強く主体的に学習する意志のある人
4.社会の動きに関心を持ち、コミュニケーション能力がある人

大学入学時までに身に付けておくべき教科・科目等

1.生命現象・健康・医療を理解する上で必要となる数学・理科の基礎的な知識
2.グローバル社会への関心とコミュニケーションツールとしての英語等の語学力
3.課外活動、ボランティア活動等を通じた主体性、自律性、積極性

入学者選抜の基本方針

保健医療学部は、学是「仁」に共感でき、豊かな感性を持った理学療法士・診療放射線技師を養成するため、多様な選抜方式を採用します。入学者選抜にあたっては、選抜方式ごとに学力試験や、小論文試験・面接試験などを実施して、入学者の受け入れを多面的・総合的に評価します。また、選抜方式によっては高等学校での学修状況や諸活動での取り組みなども評価対象に加えます。

学部等名　医療科学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療科学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観、豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び技術を教授研究して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とする。
①人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力を身に付ける。
②良質な医療を提供するうえで求められる、患者や他の医療職者に対して適切にコミュニケーションできる能力を身に付ける。
③医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力を身に付ける。
④自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を身に付ける。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療科学部では、医療科学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人 間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に 係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い 医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

■医療科学部共通
人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力
良質な医療を提供するうえで求められる、患者や他の医療職者に対して適切にコミュニケーションできる能力
医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力
自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力

■臨床検査学科
医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付 けた者に『学士（臨床検査学）』の学位を授与します。
人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力
人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
臨床検査及び周辺領域に関する専門的知識と医療技術を持ち、科学的根拠に基づいた有効な臨床検査を実践できる能力
臨床検査学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

■臨床工学科
医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（臨床工学）』

の学位を授与します。
人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力
人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が 身に付いている
医療機器の高度化・多様化に対応し、科学的根拠に基づいた 医療機器の管理・操作・保守・点検を実践できる確実な専門的知識と技術
臨床工学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
医療科学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び 『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

■医療科学部共通
人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師及び臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の理解を深めるとともに、『専門基礎分野』『専門分野』における演習、実習・実験で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識する。臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を理解し、演習・実習科目でグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成し、臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解できるようにカリキュラムを編成します。
医学と医療に係る基本的知識を基に主体的に行動できる能力を育成するために必要となる科学的根拠に基づいた専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成します。
演習科目や実習科目等を配置し、自ら学修する能力を備え、自己研鑽を続けて自己成長する態度を身につける教育を行います。
『総合研究』に配置する授業科目を学修し、特別研究や卒業研究に取り組み、課題を発し、まとめる過程を学修することにより、主体性をもって課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を育成します。

■臨床検査学科
人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択 科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨地実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力 を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨地実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
医学・医療及び臨床検査学の知識と基本となる理論を学修し、対象となる人々の健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた臨床検査技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得

できるようにカリキュラムを編成する。
『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取組むことができるようにカリキュラムを編成する。

■臨床工学科
　人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を併せ持った臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』人間科学系 の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習により医療現場において患者との 対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
医学・医療と工学を総合的に理解し、臨床工学領域に係る専的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成する。
『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取組むことができるようにカリキュラムを編成する。
　学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。
　評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html）

（概要）
　医療科学部では、学是である「仁」の精神の基づき、順天堂の長い歴史と伝統の中で培われた安心・安全で質の高い医療を提供 し、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療専門職者（臨床検査技師・臨床工学技士）を育成する。
　従って、入学者には以下のような資質及び素養を備えた学生を求める。

■医療科学部共通
　①「仁」の精神に共感し、人に対する関心や思いやりがある人
　②豊かな人間性、柔軟性と協調性を備え、他者との連携・協調を保てる人
　③入学後に学ぶ学問領域に興味を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
　④国内外の医学・医療科学の分野に広く貢献したいという志のある人
　⑤高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけている人
　⑥基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

　各学科では、教育課程の内容に基づいて、次の能力を身に付けられる学生を求めます。

■臨床検査学科
　①人を思いやり、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
　②医療や臨床検査に高い関心を持ち、臨床検査技師になる意思が強い人
　③自己研鑽の意欲があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、主体的に粘り強く努力を続けることのできる人
　④社会の動きに関心を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人

■臨床工学科

①人を思いやり、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考 えることができる人
②医療や臨床工学に高い関心を持ち、臨床工学技士になる意思が強い人
③自己研鑽の意欲があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、主体的に粘り強く努力を続けることのできる人
④社会の動きに関心を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
医学部（群）（専門課程）	－	7人	397人	12人	357人	464人	1,237人
スポーツ健康科学部	－	5人	35人	0人	18人	5人	63人
医療看護学部	－	0人	26人	2人	25人	1人	54人
保健看護学部	－	12人	10人	7人	6人	3人	38人
国際教養学部	－	12人	16人	4人	3人	0人	35人
保健医療学部	－	13人	14人	4人	9人	0人	40人
医療科学部	－	10人	4人	1人	2人	0人	17人
教養部（一般教育）	－	4人	10人	0人	4人	0人	18人
その他	－	2人	1人	0人	1人	0人	4人
大学院	－	229人	68人	4人	57人	6人	364人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	3,192人	3,192人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/graduate/kenkyudb/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

1)各学部で毎年FD ワークショップを開催している。教職員に加え、臨床指導者、学生も参加し、教育成果の検証を行い、教育課程や教育内容・方法の改善に反映させている。
2)全学部で学生による授業評価アンケートを実施している。評価結果を担当教員にフィードバックし、授業の質の改善を促している。
3)各学部・研究科における教育改善・改革を進めるために公募制の「教育改善プロジェクト」を設けている。本制度により、教育（授業等）の質的向上を目指す取り組みや新たな教育プログラムの開発について予算補助を行っている。採択者は、実績報告の内容を学長が指定する次年度各学部FD 研修会等（ワークショップ等）にて報告を行っている。
4)教育の質向上を図るため、「ベストチューター賞」、「ベストプロフェッサー賞」に関する実施要領により、各学部からの申請に基づき、大学として顕彰している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
医学部	138 人	138 人	100.0%	826 人	828 人	100.2%	0 人	0 人
スポーツ健康科学部	600 人	619 人	103.2%	2,020 人	2,045 人	100.2%	0 人	0 人
医療看護学部	220 人	212 人	96.4%	820 人	814 人	99.3%	0 人	0 人
保健看護学部	130 人	134 人	105.0%	490 人	492 人	103.1%	0 人	0 人
国際教養学部	240 人	236 人	98.3%	960 人	945 人	98.4%	0 人	0 人
保健医療学部	240 人	244 人	101.7%	960 人	961 人	100.1%	0 人	0 人
医療科学部	180 人	182 人	101.1%	180 人	182 人	101.1%	0 人	0 人
合計	1,748 人	1,765 人	101.0%	6,256 人	6,267 人	100.2%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
医学部	134 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	134 人 (100.0%)
スポーツ健康科学部	401 人 (100.0%)	39 人 (9.7%)	335 人 (83.5%)	27 人 (6.7%)
医療看護学部	196 人 (100.0%)	2 人 (1.0%)	190 人 (96.9%)	4 人 (2.0%)
保健看護学部	118 人 (100.0%)	2 人 (1.7%)	115 人 (97.5%)	1 人 (0.8%)
国際教養学部	111 人 (100.0%)	8 人 (7.2%)	92 人 (82.9%)	11 人 (9.9%)
合計	960 人 (100.0%)	51 人 (5.3%)	732 人 (76.3%)	177 人 (18.4%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
教育要項（シラバス）に各授業科目の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を掲載している。
各学部の作成・公表に係る取扱いは次の通りである。

〈1〉 医学部
授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。
・12 月中旬～2 月上旬頃
カリキュラム委員会において、次年度のカリキュラム大枠が承認された後に科目担当講座・教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。
・1 月上旬頃～3 月上旬頃
作成、〆切
・3 月下旬頃まで
作成された内容のチェック。
・3 月末
新学期オリエンテーション実施日に公表。
記載内容は、学習内容・概要、学習目標（一般目標・到達目標）、自己学習（準備学習）、学習上の注意点、課題に関するフィードバック、成績評価方法・基準、担当教員等としている。

〈2〉 スポーツ健康科学部
学部内の全教員に対してスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配信して、全学科統一の基準で作成をしている。例年、12 月～3 月に作成を行い、新学期開始に合わせて 3 月下旬に HP で公表している。

〈3〉 医療看護学部
毎年度、シラバス作成要領を科目担当者に配布し更新を行っており、更に教員同士のピアレビューを行い点検と改善を図っている。例年、12 月～3 月に作成を行い、新学期開始に合わせて 4 月初旬に HP で公表している。
記載内容は、当該科目のディプロマポリシー及びコンピテンシーとの関連、授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準、準備学習（予習・復習等）の具体的な内容、課題（試験やレポート等）に対する学生へのフィードバック、担当教員（実務経験の有無を含む）等としている。

〈4〉 保健看護学部
カリキュラム委員会の要請により、科目担当教員がシラバスを作成し、同委員会で内容を点検している。
学生に配布する「教育要項」に記載すると共に、保健看護学部ホームページにも掲載して公表している。

〈5〉 国際教養学部
授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。
・11 月中旬～12 月上旬頃
後期授業開始後（10 月）、一定期間を経過した後に科目担当教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。
・1 月上旬頃
作成〆切
・３月下旬頃まで
作成された内容のチェック
・４月以降
新学期開始と同時に公表

記載内容は、授業の方法、内容、到達(達成)目標、成績評価方法、予習復習等の授業外の学修内容、オフィスアワー、授業回数、担当教員、ディプロマポリシーとの関連、カリキュラム体系との関連(ナンバリング)等としている。なお、実務経験のある教員等による授業科目の場合は、その旨を記載している。

〈6〉 保健医療学部

開講しているすべての科目についてシラバスを作成し、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。作成されたシラバスについては、WEB 上で公表をしている。

〈7〉 医療科学部

授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、両学科統一の基準で作成している。また、カリキュラム委員を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。作成されたシラバスについては、医療科学部ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

〈1〉 医学部

①学修の成果に係る評価について

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている以下の成績評価基準により単位を授与している。当該基準は、教育要項の共通事項において学生に周知するとともに電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定し、教育要項に明記のうえ学生に周知している。

なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

判定	評価	評点	ＧＰ	備考
合格	S	100 点～90 点	4	－
	A	89 点～80 点	3	
	B	79 点～70 点	2	
	C	69 点～60 点	1	
再試験合格	C	60 点	1	
不合格	D	59 点～0 点	0	
失格	失格（G）	/	－	授業数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格（G）（「/」）はＧＰＡ算出の対象外となる。

②卒業の認定に当っての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては医学部教育要項の共通事項上に記載のうえ、新学期オリエンテーションにおいて配布している。

〈2〉 スポーツ健康科学部

①学修の成果に係る評価について

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「学修要覧」において、成績及び単位授与・認定について公表し、厳格に運用をしている。

②卒業の認定に当っての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「学修要覧」にも明記している。

スポーツ健康科学部に 4 年以上在学し、学則第 98 条の規定により 124 単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。なお、卒業に必要な単位として算入される科目と、資格課程等の取得を目的として修得する科目など卒業に必要な単位として算入されない科目がある。

〈3〉 医療看護学部

①学修の成果に係る評価について

成績評価と単位認定は、教育要項（シラバス）及び履修要項に定めた成績評価方法（試験、レポート、課題、実技、日々の学習状況等）及び基準に基づき評価の上、判定会議及び教授会において厳格かつ適正に判定している。

②卒業の認定に当っての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を定め、履修要項や学生募集要項等に掲載し、ホームページ上で公表している。また、ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な能力として 10 分類、48 項目のコンピテンシーを設定しており、各

科目とコンピテンシーの対応表と併せて履修要項に掲載している。卒業判定においては、ディプロマ・ポリシー及び学生の修得単位数等を踏まえ、適正に判定を行っている。

〈4〉 保健看護学部

①学修の成果に係る評価について

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「教育要項」において、成績及び単位認定について公表し、厳格に運用をしている。

②卒業の認定に当っての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「教育要項」にも明記している。

保健看護学部に 4 年以上在学し、学則第 128 条の規程により 130 単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を行う。

〈5〉 国際教養学部

①学修の成果に係る評価について

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている以下の成績評価基準により単位授与・履修認定を実施している。当該基準は、履修の手引きとして新学期ガイダンスにおいて学生に配布するとともに学生専用ホームページ上においても電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価・定期試験・レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定、シラバスに明記のうえ学生に周知している。なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

合否	評価	点数換算	GP	備考
合格	S	90～100	4.0	特に優れた成績を示したもの
	A	80～89	3.0	優れた成績を示したもの
	B	70～79	2.0	妥当と認められる成績を示したもの
	C	60～69	1.0	合格と認められる最低限の成績を示したもの
	認定	－	－	単位互換に基づき、合格であることを示したもの
不合格	D	59 以下	0.0	不合格を示したもの
	受験資格無	－	0.0	2／3 以上の出席要件を満たさず受験資格がないことを示したもの
履修中	履修中	－	－	現在、履修中であることを示したもの
中止	中　止	－	－	履修中止処理を行ったことを示したもの

②卒業の認定に当っての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修の手引き上に記載のうえ、新学期ガイダンスにおいて配布するとともに学生専用ホームページ上において電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

〈6〉 保健医療学部

①学修の成果に係る評価について

授業科目の学習成果の評価については、各科目の特性を考慮の上、科目担当者が試験やレポートを課し評価している。評価方法及び評価基準については、講義開始前にシラバスにて学生に開示し、記載内容に則り厳正かつ適正に評価を実施している。ペーパー試験やレポートで評価することが難しい定性的能力については、ルーブリックを活用し、評価基準を学生に明示した上で厳正に評価している。

②卒業の認定に当っての基準について

保健医療学部では卒業の認定に関するディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページに掲載し公表している。まだ完成年度をむかえていないため卒業認定を行っていないが、2022 年度の最初の卒業認定以降は、卒業の認定に関する方針に基づき適切に卒業判定を実施する予定である。

〈7〉 医療科学部

①学修の成果に係る評価について

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「学修要覧」において、成績評価と単位認定について公表し、厳格かつ適正に判定している。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。

医療科学部に 4 年以上在学し、学則 144 条の規程により 129 単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
医学部	医学科	220 単位	有・無	単位
ｽﾎﾟｰﾂ健康科学部	スポーツ科学科	124 単位	有・無	単位
	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	124 単位	有・無	単位
	健康学科	124 単位	有・無	単位
	ｽﾎﾟｰﾂ健康科学科	124 単位	有・無	単位
医療看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
保健看護学部	看護学科	130 単位	有・無	単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有・無	単位
保健医療学部	理学療法学科	132 単位	有・無	単位
	診療放射線学科（旧課程）	130 単位	有・無	単位
	診療放射線学科（新課程）	133 単位	有・無	単位
医療科学部	臨床検査学科	129 単位	有・無	単位
	臨床工学科	129 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：法人・大学ホームページ及び各学部毎のホームページに情報を掲載するとともに、各学部ホームページから大学案内（パンフレット）をダウンロード・閲覧又は資料請求することにより公表している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考 （任意記載事項）
医学部	医学科	700,000 円	2,000,000 円	200,000 円	今年度 1 年次の場合 （その他）施設設備費
スポーツ健康科学部	スポーツ科学科	700,000 円	200,000 円	450,000 円	（その他）施設設備費、教育充実費
	スポーツマネジメント学科	700,000 円	200,000 円	450,000 円	（その他）施設設備費、教育充実費
	健康学科	700,000 円	200,000 円	450,000 円	（その他）施設設備費、教育充実費
	スポーツ健康科学科	700,000 円	200,000 円	450,000 円	（その他）施設設備費、教育充実費
医療看護学部	看護学科	900,000 円	300,000 円	650,000 円	（その他）施設設備費、実験実習費
保健看護学部	看護学科	900,000 円	300,000 円	440,000 円	1 年次の場合 （その他）施設設備費、実験実習費
国際教養学部	国際教養学科	1,000,000 円	300,000 円	250,000 円	（その他）教育充実費
保健医療学部	理学療法学科	1,000,000 円	300,000 円	450,000 円	1 年次の場合 （その他）施設設備費、実験実習費
	診療放射線学科	1,000,000 円	300,000 円	450,000 円	1 年次の場合 （その他）施設設備費、実験実習費
医療科学部	臨床検査学科	1,000,000 円	300,000 円	450,000 円	1 年次の場合 （その他）施設設備費、実験実習費
	臨床工学科	1,000,000 円	300,000 円	450,000 円	1 年次の場合 （その他）施設設備費、実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 1)全学部・研究科において、学生の質問・相談等に応じるための時間として、オフィスアワーを設定している。 2)国家試験への取り組みとして、オリエンテーション、特別講義、補講、模擬試験等を実施している。医学部では卒業支援委員会、医療看護学部及び保健医療学部では国家試験対策小委員会、保健看護学部では国家試験対策ワーキンググループを組織し、取り組んでいる。なお、医療科学部においては、国家試験対策委員会を組織化する計画である。医学部では、学生の自主組織である国家試験対策委員会も組織され、外部講座・外部模試の調整を行っている。教職員、学生が一体となって国家試験合格をバックアップする体制が整備されている。 3)教員採用試験対策として、進路指導室に経験豊富な校長等、学校実務の経験が豊富な元教員を採用し、勉強会を開催している。 4)補充教育の一環として、医学部、医療看護学部及び保健看護学部では e-learning コンテンツを導入している。医学部では、「manaba」を導入しており、講義・学習の予習と復習、学生からの質問の受付に活用している。仮進級者を対象としたコースもあり、学生の能力に応じた担当教員によるフォローアップが行われている。保健看護学部でも「manaba」を導入しており、講義・実習等の受講支援に活用している。 5)スポーツ健康科学部及び保健医療学部では、成績優秀なアシスタント学生（ラーニング・アシスタント）による学修フォローアップのための勉強会を放課後に開催している。 6)国際教養学部では、言語学習センターを設置しており、常駐している教員による外国語学習におけるカウンセリングを受けることができ、正規カリキュラムと自習を有機的に連動させ、学習成果を上げられ、自立性を育む環境を整えている。 7)障害のある学生については、個々の事情を勘案し、各委員会で状況を報告して必要な対応を行っている。キャンパス内の必要な箇所に、手すり、スロープ、エレベーター、障害者用トイレが設置されている。さくらキャンパスではノートテイカーと手話通訳者を配置するなど、聴覚障害や肢体不自由な学生に対しては個別に対応している。受験の申し出があれば、入試委員会で受験資格や対応の確認を行い、入学後は、学生部を中心に支援しており、対応後も学生に定期的にヒアリングを行い、継続的に支援している。国際教養学部では、性的少数者に配慮し、多目的トイレにレインボーマークを貼付している。 8)授業を欠席しがちな学生や、成績不良者には各教科の担当教員や学生部長、学部長が面談等により指導し、留年者を出さないように取り組んでいる。留年者には、担任又はアドバイザーが重点的なケアを実施している。特にメンタル面でのケアを重視し、必要に応じて各委員会や関係各署と連携を取り、対応している。また、休・退学希望者については、その理由について本人・保護者・担当教員が面談等を通じて把握し、再修学を基本とした指導・支援を行っている。最終的に休・退学を希望する場合は、願書を提出させて教務委員長、学生部長、学部長が確認のうえ、教授会で審議し、学長が許可している。 9)「災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、非常災害等の被災による経済的理由から、修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額又は一部を免除することにより、学業の継続及び進学の機会を支援している。 10)「経済的理由による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、経済的理由から修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額又は一部を免除することにより、学業の継続及び進学の機会を支援している。 11)「順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程」を定め、私費外国人留学生に対し、その経済的負担を軽減するため、奨学金を給付し、学業の継続及び進学の機会を支援している。 12)「卓越した学生に対する学納金減免に関する規則」を定め、成績優秀者等の卓越した学生（学部学生・大学院生）を対象とし、学納金を減免することで教育研究の活性化を図っている。 13)「順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金」を定め、国際的に活躍し、学生・教職員の模範となる人材を対象とし、教育・研究・競技の活性化を図っている。

14)日本学生支援機構の奨学金や、各学部・研究科ごとの奨学金を多く用意することで、修学支援を図っている。
15)医学研究科では、博士課程入学者のうち医師免許を有し、本学医学部附属病院において診療業務に携わった大学院生に対して、本学規定に基づき給与が支給されている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
1)医学部に卒業支援委員会を、スポーツ健康科学部に就職課・就職委員会を、医療看護学部に国家試験対策小委員会を、保健看護学部に国家試験対策ワーキンググループ・就職関係ワーキンググループを、国際教養学部にキャリア支援委員会及び就職支援室・教職課程指導室を、保健医療学部にキャリア支援委員会を、医療科学部にキャリア支援委員会及び国家試験対策委員会を置き、各学部の特色に合った資格取得支援・進路支援・就職支援を行っている。大学院各研究科では、それぞれ研究指導教員及び研究指導補助教員が中心となり、進路指導・キャリア支援を行っている。
2)全学的な教職課程運営組織として、「教職課程センター」を設置しており、教員養成を推進している。
3)企業、官庁等の就職支援を推進することを目的に、順天堂大学就職支援センターを設置している。さくらキャンパス及び本郷・お茶の水キャンパスには、それぞれ就職支援室を設置しており、スポーツ健康科学部就職支援室(さくらキャンパス)では、教員1名及び就職課の3名の職員が兼務し、国際教養学部就職支援室(本郷・お茶の水キャンパス)と連携を図りながら、学部生、大学院生の就職支援の任に当たっている。国際教養学部就職支援室では、担当職員2名とキャリアカウンセラー1名が常駐し、学生対応を行っている。
4)各学部において、進路希望に応じたオリエンテーションや研修会等を開催している。医学部では、初期臨床研修マッチングに関するオリエンテーションや医学部附属病院の説明会を開催している。スポーツ健康科学部では、就職支援研修会・講座を延べ130日行っている。医療看護学部及び保健看護学部では、医学部附属6病院就職説明会や就職試験対策やマナー研修会等も開催している。国際教養学部では学期始めにキャリアガイダンスを実施し、年間を通じてキャリア支援セミナーを開催している。保健医療学部では、医学部附属6病院就職説明会や就職試験対策やマナー研修会等の開催に加え、年度始めにキャリアガイダンスを実施している。なお、医療科学部でも完成年度に向けて、同様の取り組みを計画している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
1)学部学生の生活全般の相談（心の健康・対人関係・学業や進路・クラブ活動・寮生活・その他の生活一般）に対する相談窓口として学生相談室等を設置しており、精神科医(学生相談室長)、臨床心理士・精神保健福祉士及び担任・アドバイザー教員を含むスタッフが、カウンセラーとして対応できるよう体制を整備している。また、大学院生に対しても同様の体制を整備している。相談体制については学生便覧等にて学生へ案内している。
2)学内ホームページに「ハラスメントのない明るいキャンパス・職場とするために」を掲載している。ハラスメントをセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントなど、行為者本人の意図のいかんに関わらず、相手方の人権や人格的尊厳を傷つける不適切な言動と定義し、「1 ハラスメントとは？」、「2 被害者・加害者を出さないために」、「3 もしハラスメントの被害にあってしまったら…」について説明している。ヘルプ・ラインの部署も教職員、学生ごとに掲載している。
3)「学校法人順天堂におけるハラスメントの防止等に関する規程」及びキャンパスごとに「人権委員会規程」を制定し、ハラスメントを防止する体制を整備している。
4)各キャンパス安全衛生管理室に校医や保健師等を配置しており、日常的な学生の健康サポート、具合が悪くなった際の迅速かつ手厚いサポートをとれる体制を整備している。健康診断は、春期に全員を対象に実施し、秋期は安全衛生管理室より指示された者を対象に実施している。また、無料でインフルエンザ予防接種を実施しており、病院実習前には麻

疹・風疹・水痘・ムンプスの予防接種を受けるよう指導している。
5)「順天堂大学職員・学生等の寮管理規程」では、学生(大学院生含)、臨床研修医、海外留学生等にも入寮資格が与えられており、居住環境の支援が行なわれている。
6)学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度等に全学生が加入することで、教育、研究中の不慮の事故に備えている。また、不慮の事故に遭遇した場合の対処方法について、学生便覧に記載し、新学期オリエンテーションで確認している。夜間・休日であっても、守衛を介して関係部署に連絡がとれる体制を整備している。
7)課外活動が非常に盛んで、原則、教授又は先任准教授がクラブ又は同好会の部長・顧問となり指導している。
8)「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応方針」を策定、都度内容の改訂を行い、全学生・教職員に周知徹底し、学生・教職員の安全・健康確保と感染拡大防止に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103055
学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		302人	292人	315人
内訳	第Ⅰ区分	162人	179人	
	第Ⅱ区分	87人	68人	
	第Ⅲ区分	54人	45人	
家計急変による支援対象者（年間）				11人
合計（年間）				326人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	—		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	20人		
計	22人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
３月以上の停学	0人
年間計	—
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	61人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	30人		
計	61人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。